

区の魅力と活力を推進するための
アクションプラン
【素案】



令和2年度（2020年度）～令和6年度（2024年度）

令和2年3月

広島市安芸区

目 次

1	アクションプランの策定に当たって	
(1)	アクションプラン策定の趣旨	1
(2)	計画期間	1
(3)	アクションプランの位置付け	1
2	安芸区の現状と課題	2
3	安芸区のまちづくりの方向性	4
	【主な取組】	
	まちづくりの方向性①	4
	まちづくりの方向性②	6
	まちづくりの方向性③	6
	まちづくりの方向性④	7
4	計画の推進に当たって	8

1 アクションプランの策定に当たって

(1) アクションプラン策定の趣旨

広島市には八つの行政区があり、区によって人口、地勢、産業構造、地域資源、歴史・文化などに違いがあり、地域が抱える課題も様々です。

安芸区では、区役所が区民に身近な行政窓口の役割を担うとともに、安芸区まちづくり支援センターを中心に、地域の特色を生かしながら、区民のみなさんの思いをより反映したまちづくりを進めることにより、住みやすさ・暮らしやすさを実感できるまちの実現を目指しています。

そのためには、区民のみなさんによる主体的なまちづくりの推進も必要不可欠になります。

そこで、区民のみなさんと区役所等がともに安芸区の今後のまちづくりの方向性を共有しながら、これまで以上に住民主体のまちづくりに取り組んでいくため、本アクションプランをまとめました。

また、広島市では、200万人広島都市圏構想を掲げ、経済面や生活面で結び付きのある近隣市町との連携や交流によって、誰もが“住み続けたい”“住んでみたい”まちの実現を目指しています。安芸区においても、府中町、海田町、熊野町及び坂町を始めとした東部地域との連携や交流に積極的に取り組み、東部地域全体の活性化に貢献する取組を推進します。

(2) 計画期間

令和2年度（2020年度）から令和6年度（2024年度）までの5年間とします。

(3) アクションプランの位置付け

本アクションプランは、第6次基本計画に掲げる「区における地域住民を主体としたまちづくり活動の充実」及び「まちづくりの方向性」を区民のみなさんと行政が協働して実現していくための計画として策定します。

2 安芸区の現状と課題

○ 特性について

- (1) 位置は、広島市東部にあり、府中町、海田町、熊野町及び坂町と境を接し、住民相互の交流や経済面、生活面での結び付きが深い。
- (2) 自然は、岩滝山や呉娑々宇山、水ケ丸山、小田山、鉾取山、絵下山などの山々に囲まれ、北東部から南西部にかけて瀬野川が貫流するなど、区民に憩いと潤いを与える豊かな自然環境を有している。
- (3) 地勢は、面積の約7割を山林が占めており、山の斜面まで住宅が折り重なるように建ち並んでいる。船越地区や矢野地区などの平地部でも、幹線道路をそれると道路が狭あいで、住宅がひしめき合うように建っている。瀬野及び矢野の両地区では、山間部を切り開いた大規模な住宅団地が造成されており、それぞれ新しいコミュニティが形成されている。
- (4) 交通は、本市都心部と東広島市方面を結ぶ国道2号及びJR山陽本線が、また、本市都心部と呉市方面を結ぶ国道31号及びJR呉線が通っている。
- (5) 人口は、約8万人と8区の中で最も少ない。年齢別では65歳以上の高齢者の割合が年々増えており、高齢化率は全市平均を上回り、8区中3番目に高い。
- (6) 産業は、他の区と比較して、工業や建設業などの第2次産業従事者が多く、また、海田湾沿いの埋立地には工業団地や流通団地が形成されており、経済情勢に応じて製造品出荷額や商品販売額等が増減するが、近年はいずれも増加傾向にある。

○ 地域資源について

- (1) 瀬野川は、熊野川や畑賀川などの支川ともども、安芸区を特色付ける自然資源である。河川敷への遊歩道の整備もあいまって極めて親水性が高く、日頃からウォーキングや、ピクニック、水鳥や水生昆虫等の観察などで多くの市民が憩う場となっているほか、中野・中野東地区では住民自らが桜や芝桜を植栽し、維持・管理を行うなど、自然環境を生かした良好な景観・風致を形成している。また、河川敷広場では祭りや花火大会等が開催され、地域コミュニティの拠点として活用されている。

- (2) 区民まつりや区民スポーツ大会など全区民を対象とする文化・スポーツイベントは、旧4町村（船越町、瀬野川町、熊野跡村、矢野町）の地域住民が交流を深め、区民としての連帯意識を醸成する場となっている。
- (3) 瀬野川にほぼ沿うように、江戸時代の昔、京都と九州を結んだ『西国街道』が通っており、沿道には由緒ある神社仏閣などの史跡が点在するなど、郷土の歴史をうかがい知ることができる。

○ 身近な課題について

- (1) 高齢化の進展に伴い、一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯が増加しており、清掃や買い物、ごみ出しなど日常生活面での支援のほか、災害時における避難支援の取組等が重要な課題となっている。
- (2) 町内会・自治会その他地域団体では、担い手の高齢化や慢性的な人材の不足に直面しており、持続的・継続的な活動が困難になりつつある地域団体が増えている。
- (3) 買い物先の大規模店舗志向やインターネット販売の活用、後継者不足等により、地域では商店が減っており、交通手段を持たない世帯、インターネットを利用しない世帯等が買い物難民化しており、日常の暮らしに大きな不便が生じている。また、こうした商店は、商品流通のみならず、地域のにぎわいづくりの面で果たす役割が小さくないことから、商店の減少は地域コミュニティの衰退に直結する問題として有効な対策が求められている。
- (4) 山々に囲まれた安芸区では、猪や鹿、猿などにより農地が荒らされる被害が続出しているほか、住宅街にも出没しており、園児・児童を始め住民の安全を脅かす存在として大きな社会問題となっている。
- (5) 少子高齢化や核家族化の進展、集合住宅の増加等による新旧住民の混在などにより、世代や地縁の異なる住民間の交流が乏しくなっており、地域コミュニティの維持が困難になっている。

3 安芸区のまちづくりの方向性

安芸区では、地域の課題解決や地域の魅力と活力の向上に資する区民のみなさんの主体的かつ継続的な活動を効果的に支援することによって、地域特性を生かした個性豊かで魅力と活力のあるまちづくりの推進に取り組みます。

ここでは、安芸区の現状や、区のまちづくり懇談会などでみなさんからいただいた意見を踏まえ、安芸区の四つのまちづくりの方向性と主な取組をまとめています。また、区のまちづくり懇談会で話し合った、住民のみなさんが主体となって取り組む活動についてもご紹介します。

まちづくりの方向性① ひとを育み、安全・安心で地域が支え合いながら健康に暮らせるまちづくり

【概要】 まちづくりの担い手や子育て支援体制の確保、防災・防犯力の強化などの地域課題の解決に取り組み、安全・安心で地域が支え合いながら健康に暮らせるまちづくりを進めます。特に、中山間地では、定住の促進などにより、地域コミュニティの活性化を図ります。

【主な取組】

○ 地域の支え合い

(1) 日常の困りごとに対応する活動拠点づくり

住民が抱える日常の困りごとに対応する活動拠点づくりを支援することにより、支え合いの意識づくりと地域活動への参加を促す。

新

- ・ 地域で積極的に活動している市民団体やボランティアを構成員とした「我が町じゃけん！地域の応援隊プロジェクト会議」を、安芸区役所が事務局として創設し、安芸区の枠を超えて近隣の市町とも連携し、既存組織にとらわれない若い世代に積極的に参加してもらい、地域の枠を超えたつながりを生み出すことにより、地域を元気にする取組の企画につなげる。

継

- ・ 中野東地区にある平原上集会所において、介護予防の自主活動グループ「悠々クラブ」が、毎月1回、健康麻雀、軽スポーツ、料理教室、囲碁、将棋をすることができる

ワンコインカフェを開催し、住民同士の交流を促進している。引き続き、健康な食事に対する知識を深めるため、地域起こし推進課が所管する「”まるごと元気”地域コミュニティ活性化補助金」を活用し、すこやか食生活推進リーダーを講師として料理教室を年1~2回開催する。

など13個

(2) 子育て支援

子育て世帯が抱える悩みを相談することができる環境を整え、安心して子育てをすることができると感じるまちづくりを推進する。

3個

(3) 高齢者世帯への支援

高齢者世帯に対して、身近な困りごとに細やかな支援を行うことにより高齢者が住みやすいまちづくりを推進する。

8個

(4) 障害者世帯への支援

障害のある方やその家族が、安心して地域生活を送れるようまちづくりを推進する。

1個

○ 災害に強く、安全・安心なまちづくり

(1) 災害への備えの充実

平成30年(2018年)7月の豪雨災害の教訓を踏まえ、各機関が連携して地域防災力の向上を図り、安全・安心に暮らせるまちづくりを推進する。

4個

(2) 防犯対策の強化

住民の意識啓発を図りながら、犯罪や事故の起こりにくい安全・安心なまちづくりを推進する。

2個

○ 健康づくりの増進

ウォーキングを開催したり地域の集まりを促したりすることにより、住民の健康づくりの機会を提供し、地域の活性化を図る。

3個

○ 中山間地の活性化

阿戸地区を始めとする中山間地において、多くの地区外の住民による来訪を促すことにより、地域の活性化を推進する。

3個

まちづくりの方向性② 豊かな自然と共存したやすらぎのあるまちづくり

【概要】 岩滝山や蓮華寺山、鉾取山、絵下山などの山々や瀬野川の水辺などの豊かな自然を保全・活用し、住民が身近に緑や水に親しむことのできる環境づくりに取り組み、豊かな自然と共存したやすらぎのあるまちづくりを進めます。

【主な取組】

○ 豊かな自然との共存

(1) 自然の保全・活用

自然観察会を開催することにより、住民が自然に触れるきっかけづくりを行う。

5個

(2) やすらぎのある環境づくり

登山道の整備を行うなど、住民が身近に親しむことのできる環境づくりを行う。

2個

まちづくりの方向性③ ふれあいと文化の薫る交流のまちづくり

【概要】 かつての西国街道沿いの史跡や伝統行事を始めとする歴史・文化資源の保存・活用・継承に取り組む。また、住民が地域を愛する心を育み、多様性を受け止め、互いに認め合い、交流することができるまちづくりを進めます。

【主な取組】

○ ふるさと魅力活用

(1) 西国街道をはじめとした史跡の活用

ボランティアガイドを活用しながら、安芸区の魅力ある史跡について多くの住民に知ってもらう。

5 個

(2) 伝統文化の継承

各地区に伝わる伝統文化を、多くの住民に知ってもらう機会を設けるとともに、補助制度を活用して文化の継承を支援する。

5 個

○ 世代間を超えた交流

子どもから高齢者まで様々な世代の住民が交流できる場を設けて、住みやすいまちづくりを推進する。

10 個

○ 花と緑と音楽を通じた地域のきずなづくり

区内の花づくり活動を行う団体等を育成・支援し、活動の輪を広げていくことにより、花と緑にあふれた魅力あるまちづくりを進める。

5 個

まちづくりの方向性④ 東部地域をつなぐ活力とにぎわいのあるまちづくり

【概要】 隣接する府中町、海田町、熊野町及び坂町を始めとした東部地域との連携を一層促進させ、住民相互の交流や経済面、生活面での結び付きを一層深めることにより、共に活力とにぎわいのあるまちづくりを進めます。

【主な取組】

○ 住民相互の交流の促進

安芸地区交流まつりなどを活用し、安芸地区の特産品を展示・販売する場を設けるなど、多くの住民に自分たちが住む地域の特産品を知ってもらうことにより、人々の交流や地産地消促進などを図る

5 個

4 計画の推進に当たって

(1) 推進体制

本アクションプランを推進していくためには、行政だけでなく、住民や地域団体、企業、NPOといった地域全体で取り組む必要があります。このため、エリアマネジメントなど効果的な手法によって、様々な主体との連携を図りながら、効率的にまちづくりを推進します。

(2) アクションプランの進行管理

本アクションプランに掲げる取組の実施状況の点検及び進行管理を行うため、安芸区コミュニティ交流協議会等に毎年報告するとともに、区のホームページなどで公表します。